

令和7（2025）年度 学校評価アンケート集計結果【職員】（R6とR7の比較）

○実施期間 令和7年12月12日～令和8年1月8日 回答率：100%（34/34）

評価方法（A：そう思う B：だいたいそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない）

①値はそれぞれ%に変換して比較 ②回答数 R6（26/34 76%） R7 34/34 100%

項目	観 点	A		B		C		D	
		R6	R7	R6	R7	R6	R7	R6	R7
学校生活	1 学校は、今年度の学校経営目標、重点目標に向かって全職員の共通理解と取組ができています。	31	41	65	59	4	0	0	0
	2 学校は、各担当間の連携と協働体制のもと円滑な校務運営がなされている。	42	38	58	59	0	3	0	0
	3 学校は、施設・設備面において安全・清潔で学習環境は整っている。	23	18	50	71	19	12	8	0
	4 学校は、危機管理や安全管理等のマニュアル等が整備されている。	27	41	65	59	8	0	0	0
学習生活	5 先生方は、ICT活用等の授業改善に努め、わかりやすい授業の工夫をしている。	54	32	46	65	0	3	0	0
	6 先生方は、適切な授業内容で生徒に必要とされる基礎学力を定着させている。	38	29	62	71	0	0	0	0
生徒指導	7 学校は、生徒指導方針について生徒の実態を踏まえ全職員が協力して指導している。	42	47	58	53	0	0	0	0
	8 先生方は、生徒との対話を通し、粘り強く声掛け指導を行っている。	58	68	42	32	0	0	0	0
	9 先生方は、体罰や過度な叱責等を行っていない。	73	68	27	32	0	0	0	0
進路指導	10 学校は、キャリア教育を通して、生徒の自己実現に向けた指導を行っている。	54	47	46	53	0	0	0	0
	11 先生方は、進路に関する情報を適切に提供し、進路相談に細やかにに対応している。	65	65	35	35	0	0	0	0
	12 学校は、生徒の希望進路に応じた取組（講座・小論文指導・面接指導等）を行っている。	58	68	42	32	0	0	0	0
特別指導	13 学校は、ホームルーム活動や生徒会活動等を通して生徒同士の良好な人間関係を築いている。	54	32	46	68	0	0	0	0
	14 学校は、学校行事（各種講演会等含む）を通して生徒の健全育成に取り組んでいる。	69	65	31	35	0	0	0	0
	15 学校は、健康診断等を実施し、生徒の健康管理に取り組んでいる。	77	76	23	24	0	0	0	0
健康安全	16 先生方は、生徒理解に努めており、悩みごとなどに対して相談しやすい環境を作っている。	62	53	38	47	0	0	0	0
	17 学校は、いじめ等に対して組織的に対応する体制が整備されている。	65	65	35	35	0	0	0	0
地域・保護者連携	18 学校は、ホームページや報道等を利用し、保護者や地域に情報を発信している。	58	41	38	56	4	3	0	0
	19 学校は、地域等（PTA・村・各区事務所等）と連携した教育活動を行っている。	54	53	46	47	0	0	0	0
職場環境・働き方改革	20 本校では、同僚・管理者との良好な人間関係の構築ができています。	35	56	62	44	4	0	0	0
	21 本校では、個人の裁量（ゆとり）ある時間の確保ができています。	19	9	46	62	23	26	12	3
	22 本校では、一人一人の生徒との信頼関係を深めることができています。	50	38	50	62	0	0	0	0
	23 本校では、より専門性を発揮するための研修や教材研究等が充実している。	35	24	58	71	8	6	0	0
	24 本校では、心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成ができています。	35	38	65	56	0	6	0	0

①回答率がR6の76%（26/34）から100%（34/34）へ上昇し、分析の信頼性が高まった。②全24項目の肯定（A+B）は平均96.3%→97.4%と高水準を維持した一方、A平均は49.0%→46.3%に低下し、B平均は47.3%→51.1%に上昇したため、「強い肯定」より「概ね肯定」が増えた構図である。③R6に対して改善が顕著なのは施設・設備（No3）で、否定（C+D）が26.9%→11.8%へ大きく縮小した。他方、最大の課題は裁量（ゆとり）時間（No21）で、否定が34.6%→29.4%と依然高い。④職場の働き方改革（No20～24）では、No20（同僚・管理者との人間関係）は否定が解消し、関係性は改善傾向にある一方で、No21（ゆとり時間）がボトルネックとして残る。⑤No23（研修・教材研究の充実）とNo24（心身の健康・快適な職場）は否定が残り、「時間の余裕がないため研修・教材研究が十分に確保できない」「疲労や負担感が健康面に波及する」連鎖が示唆される。⑥次年度はNo21を柱に、「会議の総量削減」への工夫・改善、②業務の棚卸しと優先順位付けなどによる業務精選、③分掌・校務の平準化促進（繁忙分掌の複数担当化の改善、繁忙期の応援配置等）を進める必要がある。